



Alleanza



2025年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年7月10日

上場会社名 アレンザホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3546 URL <https://www.alleanza-hd.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼CEO (氏名) 浅倉 俊一
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 三瓶 善明 (TEL) 024-563-6818
 四半期報告書提出予定日 2024年7月16日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期第1四半期の連結業績(2024年3月1日~2024年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第1四半期	39,365	2.3	847	△41.9	906	△43.8	569	△45.7
2024年2月期第1四半期	38,468	△0.0	1,460	△29.7	1,613	△26.2	1,048	△7.1

(注) 包括利益 2025年2月期第1四半期 525百万円(△51.0%) 2024年2月期第1四半期 1,073百万円(△5.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2025年2月期第1四半期	円 銭 18.87	円 銭 18.84
2024年2月期第1四半期	円 銭 34.82	円 銭 34.77

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2025年2月期第1四半期	百万円 92,196	百万円 30,924	% 32.3
2024年2月期	百万円 88,318	百万円 30,975	% 33.7

(参考) 自己資本 2025年2月期第1四半期 29,737百万円 2024年2月期 29,790百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2024年2月期	円 銭 —	円 銭 19.0	円 銭 —	円 銭 19.0	円 銭 38.0
2025年2月期	—	—	—	—	—
2025年2月期(予想)	—	19.0	—	19.0	38.0

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年2月期の連結業績予想(2024年3月1日~2025年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	79,240	4.7	2,850	13.1	3,100	11.0	1,950	9.1	64.61
通期	157,900	5.5	4,700	14.5	5,200	12.7	3,000	26.4	99.39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年2月期1Q	30,193,386株	2024年2月期	30,193,386株
② 期末自己株式数	2025年2月期1Q	10,371株	2024年2月期	10,316株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年2月期1Q	30,183,051株	2024年2月期1Q	30,123,197株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
3. その他	10
継続企業の前提に関する重要事象等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2024年3月1日～2024年5月31日)におけるわが国経済は、賃上げによる所得環境の改善により個人消費の拡大が見込まれ、またインバウンド需要の拡大も見込まれる中で緩やかながら景気回復基調へ向かうものと期待されますが、一方で収束見通しのつかないウクライナ情勢を背景としたエネルギー資源価格の高止まりや物価高による節約志向、またゼロ金利政策解除による金利負担上昇懸念、常態化する円安基調など、経済活動の先行き不透明感が長期化しております。

当社グループが主に事業展開するホームセンター業界は、物価高の影響から節約志向が根強い中で客数減少傾向が続いており、物価高、コスト高の経営環境で他業態との価格競争が激化するなか価格転嫁の巧拙を問わず企業収益の確保が困難な状況であります。

このような状況下で、当社グループは「Challenge3000」営業収益3,000億円、経常利益率5%をグループ目標として掲げ、中期成長戦略として中核事業であるホームセンター事業を中心に、収益基盤を強化するため「MD改革」としてPB商品の売上構成率20%の実現と棚割改革、地域一番商品の育成に注力して参りました。

当期は投資採算を重視した成長投資、資本効率ならびに財務体質の強化をグループの成長戦略課題としており、設備投資の回収可能性を継続的にトレースすることで投資効率の最適化を図っております。

当第1四半期連結累計期間における新規出店としましては、ペット専門店1店舗を新たに開設し、ペット専門店4店舗をそれぞれ閉店しております。これにより当第1四半期連結会計期間末の店舗数は301店舗となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループ(当社及び連結子会社)の連結営業収益は、393億6千5百万円(前年同期比2.3%増)、連結営業利益は8億4千7百万円(前年同期比41.9%減)、連結経常利益は9億6百万円(前年同期比43.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億6千9百万円(前年同期比45.7%減)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

〔ダイユーエイト〕

ホームセンター事業は既存店ベースで、客数が前年同期比で2.1%減少し、客単価が前年同期比で2.1%増加したことにより既存店売上高は0.1%の減少となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、ホームセンターの主力部門である園芸、植物、農業資材の売上につきましては、期初3月の天候与件として降雪日が前年比で15日多く寒冷低温であった影響で売上が大きく計画数値を割込みましたが、一方で灯油、カイロ、石油暖房等の寒さ対策商品の需要が増加いたしました。以降は気温も持ち直し平均気温が前年より高く推移したことで農業除草剤、刈払機、用土、堆肥類などの売上が堅調に推移いたしました。第1四半期は年頭の能登半島地震以降東北地方でも相次いだ地震の影響でカセットコンロ、ボンベ、地震対策商品など災害対策商品需要も好調に推移いたしました。第1四半期全体を通して客数減少の影響が大きく既存店売上高は前年同期比で減収となりました。

EC部門につきましては、主要な購買チャネルとしてユーザーのライフスタイルに定着しており、EC取扱高も年々伸長の一途をたどっている中で、配送料の値上げなどコスト増もありますが、取扱い品目の増加、即日発送対応といった更なるユーザーサービスの向上に努めたこともあって前年同期比で売上高が伸長しております。

利益面につきましては、3月の寒冷低温で灯油の売上構成比率が相対的に大きかったことが、前年同期比で全体の荒利率を低下させる要因となりました。

コスト面につきましては、既存店改装による一時費用や設備修繕費のほか人件費、集配送費の増加、キャッシュレス決済手数料、ECサイト販売手数料等のコスト負担増加の影響で販売費及び一般管理費が前年同期比で増加しております。

これらの結果、ダイユーエイトにおけるセグメント営業収益は121億1千3百万円(前年同期比2.9%増)、セグメント利益(営業利益)は2億8百万円(前年同期比46.5%減)となりました。

〔タイム〕

ホームセンター事業は既存店ベースで、客数が前年同期比で4.6%減少、客単価が前年同期比で1.8%増加したことにより既存店売上高は2.9%減少となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、早期需要の取り込みで殺虫剤、強化販売施策により大人おむつなどの介護用品、また、値上げ前の駆け込み需要によりトイレットペーパーやボックスティッシュなどの紙商品が好調に推移いたしました。そのほか根強い節約志向で米類・食品・飲料などのケース販売の売上が好調でありました。一方で、前年に比べて需要期での天候不順により、DIY関連商品、花苗、鉢花などの植物や園芸用品・農業資材の売上が大きく低迷したほか、客数減少の影響が大きく収納用品、寝具・敷物、カーテン、床材などのインテリアの主要品群で季節商品、定番商品ともに前年を大きく割る結果となりました。また前年同期は出店エリアである中四国地方が5月末に梅雨入りしたことで、雨天が多く合羽・長靴等の作業衣料が好調であった反動減の影響もあって前年同期比で減収となりました。

そのような状況の中で、家族で楽しく過ごせる地域密着型ホームセンターへ進化するため、お客様に新たな発見をしていただけるよう新商品、話題商品への取組、テーマ性のある売場づくりによる需要創造、従業員の商品知識習得による販売力強化に取組んで参りました。

利益面につきましては、天候与件で主力の植物、園芸、農業資材等のホームニーズ商品が売上不振であったこと、また利益率の高いマスクなど生活衛生商品の売上が前年比で減少したことで荒利率が低下しております。

コスト面につきましては、備品消耗品や水道光熱費の節約奨励、作業計画に合わせた人員配置を行うことで残業時間の削減を進めコスト圧縮を図ったことで前年同期比で販売費及び一般管理費は減少しております。

これらの結果、タイムにおけるセグメント営業収益は42億4百万円（前年同期比3.0%減）、セグメント損失（営業損失）は3千2百万円（前年同期はセグメント利益7千2百万円）となりました。

[ホームセンターバロー]

ホームセンター事業は既存店ベースで、客数が前年同期比で2.0%減少、客単価が前年同期比で3.0%増加したことにより既存店売上高は0.9%の増加となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、ホームセンターの主力である植物・園芸用品、農業資材のほか、建築資材、防災用品、防犯用品、リフォームといったホームセンターならではのカテゴリに注力して参りました。サイクルにおきましては、修理サービス強化を掲げ、パーツ類の品揃えの拡充、自転車整備士資格取得の教育に取り組んで参りました。前期に完全子会社化したホームセンター・アント社を3月1日付で吸収合併いたしており、旧ホームセンターアント5店舗のうち4店舗を「ホームセンターバロー」に、1店舗を「タイヤ市場」に業態変更し地域のお客様に新たな価値を提案して参ります。

販売促進におきましては、バローグループ全体で取組んでいる「ルビットクレカ（クレジットカード）」の会員拡大に伴い、会員様販促、情報発信に注力しております。また、公式ホームページを3月にリニューアルし、これまで別サイトで発信していた「バローナビ」の統合、店舗SNSとの連携を行ったことによりアクセス数が大幅に増加しております。

EC事業におきましては、取扱いアイテムの拡大と翌日納品可能アイテムを拡大したことで順調に取扱い数を伸張させることができしております。

ペット事業におきましては、プライベートブランド商品の開発を推進するとともに、物販だけでなくトリミング、しつけ、動物病院などの付加価値サービスの提供を強化して参りました。

コスト面につきましては、水道光熱費のコスト負担増加や期首に連結子会社である株式会社ホームセンター・アントを吸収合併し、旧ホームセンターアント5店舗の改装コストが発生したことで前年同期比で販売費及び一般管理費が増加しております。

これらの結果、ホームセンターバローにおけるセグメント営業収益は157億1千3百万円（前年同期比4.8%増）、セグメント利益（営業利益）は5億3千6百万円（前年同期比23.2%減）となりました。

[アミーゴ]

ペットワールドアミーゴは既存店ベースで、客数が前年同期比で4.0%減少、客単価が前年同期比で1.6%増加したことにより既存店売上高は2.5%減少となりました。

当第1四半期連結累計期間における商品別販売動向につきましては、物販はペット専門店ならではのプレミアムフードやおやつといった主力カテゴリのほか冷凍フードの売上が好調であったほか、ペットシーツなどの消耗品も堅調に推移いたしました。サービス部門としては、トリミングやドッグトレーニングが伸長しておりますが、シャンプーやカットだけでなく、美容効果を推奨するプレミアムスパコースや犬の幼稚園などのサービス利用が増加しております。しかしながら当第1四半期は全体を通して生体販売が減少しており、付随するペットケージ、サイクルなどの飼育用品の販売も落ち込んだ影響が大きかったことで前年同期比で減収となりました。

新規出店につきましては4月に愛知県内5店舗目となる「ペットワールドアミーゴみなと店」を新規出店いたしました。継続してペット文化・市場拡大を目的として既存出店エリアにおけるドミナント化の深耕、新規出店に取り組んで参ります。

コスト面につきましては、人件費の高騰やキャッシュレス決済比率の増加による決済手数料負担の増加や新規出店一時費用が発生したことで前年同期比で販売費及び一般管理費が増加しております。

これらの結果、アミーゴにおけるセグメント営業収益は52億5千7百万円（前年同期比0.9%増）、セグメント利益（営業利益）は1億1千5百万円（前年同期比47.3%減）となりました。

[その他]

セグメント営業収益は55億4千7百万円（前年同期比1.9%減）、セグメント利益（営業利益）は14億6千4百万円（前年同期比16.8%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の財政状態としましては、総資産が921億9千6百万円、負債が612億7千2百万円、純資産は309億2千4百万円となりました。以上の結果、自己資本比率は32.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、2024年4月10日付「2024年2月期決算短信〔日本基準〕（連結）」において公表しました業績予想値に変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,831	4,015
売掛金	2,237	2,922
棚卸資産	28,683	30,283
未収入金	5,438	6,386
その他	1,273	1,316
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	41,465	44,923
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	48,728	48,926
減価償却累計額	△26,243	△26,488
建物及び構築物(純額)	22,485	22,437
土地	4,458	4,458
リース資産	4,726	4,728
減価償却累計額	△1,897	△1,911
リース資産(純額)	2,828	2,817
その他	9,186	9,667
減価償却累計額	△7,286	△7,304
その他(純額)	1,899	2,362
有形固定資産合計	31,672	32,076
無形固定資産		
のれん	1,581	1,454
その他	5,362	5,339
無形固定資産合計	6,943	6,794
投資その他の資産		
敷金及び保証金	6,073	6,071
その他	2,195	2,363
貸倒引当金	△31	△31
投資その他の資産合計	8,237	8,402
固定資産合計	46,853	47,273
資産合計	88,318	92,196

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,355	10,829
電子記録債務	6,983	7,102
短期借入金	8,481	11,340
1年内返済予定の長期借入金	4,702	4,445
リース債務	1,787	2,126
未払法人税等	482	542
賞与引当金	523	1,060
役員賞与引当金	41	0
契約負債	804	840
店舗閉鎖損失引当金	14	23
その他	6,766	6,977
流動負債合計	39,944	45,288
固定負債		
長期借入金	10,896	9,876
リース債務	1,732	1,344
役員退職慰労引当金	149	152
退職給付に係る負債	1,106	1,157
資産除去債務	1,768	1,750
その他	1,744	1,702
固定負債合計	17,397	15,983
負債合計	57,342	61,272
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,011	2,011
資本剰余金	12,509	12,509
利益剰余金	15,201	15,197
自己株式	△9	△9
株主資本合計	29,713	29,708
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21	10
退職給付に係る調整累計額	55	17
その他の包括利益累計額合計	77	28
新株予約権	19	19
非支配株主持分	1,165	1,167
純資産合計	30,975	30,924
負債純資産合計	88,318	92,196

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2024年3月1日 至2024年5月31日)
売上高	37,425	38,285
売上原価	24,538	25,505
売上総利益	12,886	12,780
営業収入	1,043	1,080
営業総利益	13,929	13,860
販売費及び一般管理費	12,469	13,012
営業利益	1,460	847
営業外収益		
受取利息	6	5
受取配当金	1	0
受取手数料	97	96
その他	88	78
営業外収益合計	192	182
営業外費用		
支払利息	20	37
借入手数料	4	66
為替差損	1	7
その他	13	12
営業外費用合計	39	123
経常利益	1,613	906
特別利益		
固定資産売却益	9	0
投資有価証券売却益	-	61
その他	1	-
特別利益合計	10	61
特別損失		
固定資産除却損	7	2
減損損失	-	144
投資有価証券評価損	3	3
閉店損失引当金繰入額	-	11
その他	0	-
特別損失合計	11	161
税金等調整前四半期純利益	1,613	806
法人税、住民税及び事業税	748	540
法人税等調整額	△203	△327
法人税等合計	545	212
四半期純利益	1,067	593
非支配株主に帰属する四半期純利益	18	23
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,048	569

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)
四半期純利益	1,067	593
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5	△29
退職給付に係る調整額	0	△37
その他の包括利益合計	5	△67
四半期包括利益	1,073	525
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,049	520
非支配株主に係る四半期包括利益	23	5

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイユー エイト	タイム	ホームセンタ ーパロー	アミーゴ	計		
営業収益							
外部顧客への 売上高	11,642	4,288	14,980	5,211	36,122	2,346	38,468
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	133	46	5	—	185	3,306	3,491
計	11,775	4,334	14,986	5,211	36,307	5,652	41,960
セグメント利益	389	72	698	218	1,378	1,760	3,139

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アレンザホールディングスにおける取引等のほか、アレンザホールディングス、ダイユーエイト、タイム及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,378
「その他」の区分の利益	1,760
セグメント間取引消去	△1,633
のれんの償却額	△23
固定資産の調整額	6
その他	△28
四半期連結損益計算書の営業利益	1,460

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイユー エイト	タイム	ホームセンタ ーバロー	アミーゴ	計		
営業収益							
外部顧客への 売上高	11,906	4,155	15,702	5,257	37,022	2,343	39,365
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	207	49	10	—	266	3,204	3,470
計	12,113	4,204	15,713	5,257	37,288	5,547	42,836
セグメント利益	208	△32	536	115	826	1,464	2,291

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アレンザホールディングスにおける取引等のほか、アレンザホールディングス、ダイユーエイト、タイム及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	826
「その他」の区分の利益	1,464
セグメント間取引消去	△1,397
のれんの償却額	△23
固定資産の調整額	6
その他	△28
四半期連結損益計算書の営業利益	847

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ダイユーエイト」、「ホームセンターバロー」および「アミーゴ」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間において、「ダイユーエイト」40百万円、「ホームセンターバロー」92百万円、「アミーゴ」0百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「ホームセンターバロー」セグメントにおいて、のれんの減損損失を計上したため、のれんの金額が減少しております。当該事象によるのれんの減少額は、92百万円であります。

なお、上記(固定資産に係る重要な減損損失)に当該のれんの減損損失も含めて記載しております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。